

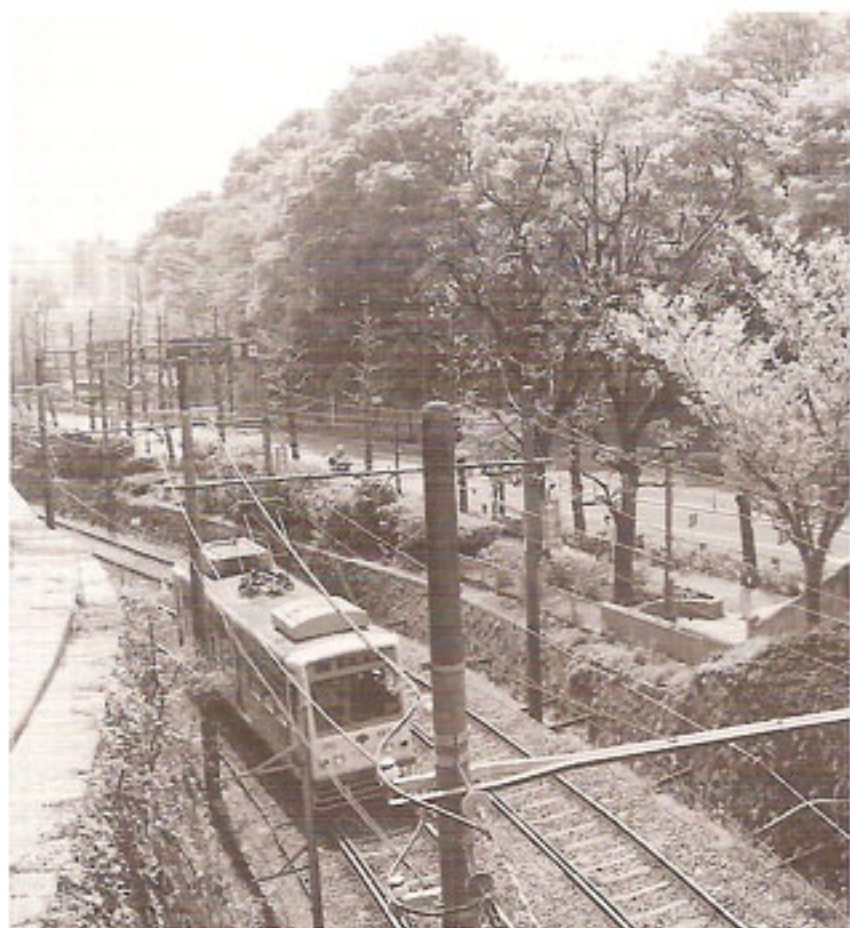
かたりべ 82

豊島区立郷土資料館だより

第一回企画展

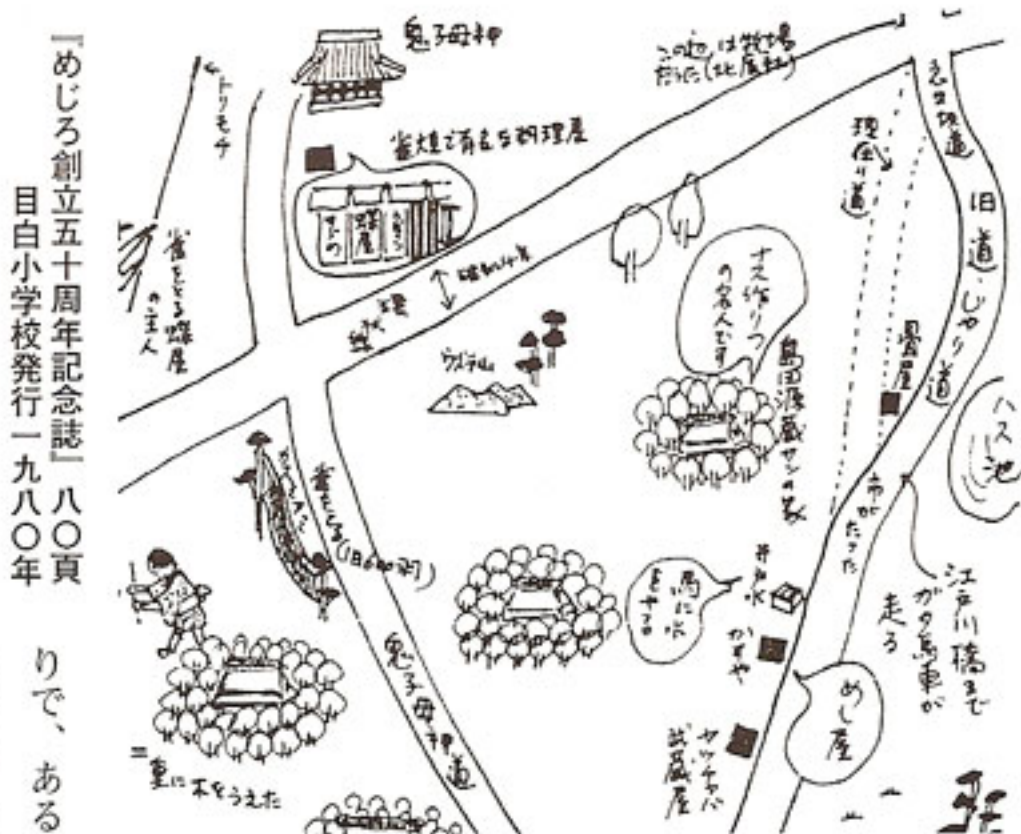
歩く・聞く・写す

— ご案内 —



千登世小橋から都電荒川線を見る 2005年4月19日撮影

大正時代・昭和初期の高田村・雑司谷村



「めじろ創立五十周年記念誌」八〇頁
目白小学校発行一九八〇年

当館では開館以来、地域史講座や歴史講座という事業を行なっています。両講座では、受講者が講演を聞く

ということ以外に講義室から外に出て、実際の歴史の舞台に行ってみるというところを実施しています。区外に出ることもありますが、この豊島区約一三km²という広さの歴史をさまざまな視点から見つめ、肌で感じ、記録してきました。何年かたち、もう一度同じ場所に行ってみると、変わっていたり変わっていないか、歳月を感じることも当然のこととしてあります。そのようなとき、無意識のうちに、記録することの必要性やこのことを人に伝えておきたいと感じる人もおられます。今回の展示では、今までのフィールドワークの成果の一部を紹介します。秋、気候がよくなり外出したいと思うようになったとき、この展示を思い出し、ひとりで、あるいはグループで身近なところを散策してみてもいいでしょうか。そして、慣れてきたら、自分自身の「歴史コース」を考えてみるのも楽しいことだと思います。そのヒントが展示室にあるか、ぜひ探してみてください。

ご承知のとおり、当館にはさまざまな資料が区民の方から寄贈されています。誰もが使っていた生活用具、職人が専門に使う道具、商人の帳簿や日記もあります。また、写真も寄贈していただくことがあります。今回は、区民の方自らが当館に持参してくださった日常生活がわかる写真も展示し、今では見られなくなった風景や暮らしのひとこまも知っていただきたいと考えています。

◆展示期間 二〇〇六年七月二〇日(日)～九月一〇日(日)

◆展示で聞こう・調べよう 学芸員の説明と参加者同士の談話会です。事前申込みは不要、エレベーター前に集合。①七月二二日(土)

②八月一九日(土) 両日とも一三時三〇分から三時までです。

ふだんの展示もみのがせない!

五月中旬から下旬にかけての臨時休館中に、収蔵展示室部分の展示替えを行いました。五つのコーナーに列品している資料は、いずれも区民の皆さまから当館へご提供いただいたものが中心になっています。ご来館の折には、おなじみの常設展とあわせて、ぜひご見学ください。

☆ちよっとむかしの家電製品

このコーナーでは、一九五〇〜七〇年代の家電製品を展示しています。今ではすっかり使わなくなってしまったもの、今も昔も基本性能や形態に変わりはないものなどさまざまです。写真パネルなどと合わせて、ちよっとむかしの豊島区の姿を振り返ってみてください。

●おもな展示資料●

白黒テレビ、カラーテレビ、真空管ラジオ、扇風機、アイロン、電気炊飯器など
☆豊島のものづくり

近年、伝統的といわれるものづくりの世界が注目されています。ここでは、未来に継承されるものづくりの心髄を、豊富な組紐資料の一部から紹介します。

●おもな展示資料●

橋詰正男コレクション（帯締め・羽織紐時計紐等）、組紐を組む台の写真パネル
◎会期中、一部展示替えを行います。

☆むかしの暮らし

このコーナーの資料は、かつて豊島区に居住した方が使用していたものです。毎日の生活で欠かせなかったものばかりです。今、これらの資料は、「むかしの暮らし」を知るための教材として学校教育の場で活用されています。「ちよっとむかしの家電製品」コーナーの展示資料と比較しながら見学すると、モノの移り変わりを知ることができます。

●おもな展示資料●

米櫃、枡、羽釜、おひつ、燭台、火鉢、炭籠、手習机等

☆戦中・戦後の区民生活

★学童疎開

第二次世界大戦の末期、国民学校（小学校）の子供たちの疎開がおこなわれました。疎開とは、アメリカ軍の日本空襲にそなえて、東京などの大都市から地方に移ることです。今回は、長野県の神川

村大屋（現・上田市）に疎開した仰高国民学校五年生男子と豊島区の父母や姉兄との間で交わされた手紙を取り上げます最近、ご寄贈を受けた一五〇余の手紙の一部で、初めての展示です。

●おもな展示資料●

疎開先と豊島区を結ぶ手紙、疎開先の生活をつたえる写真

◎会期中、一部展示替えを行います。

★ヤミ市からの出発

一九四五年八月の敗戦後、都市部ではあらゆる物資が不足していたため、鉄道のターミナル駅付近に、次々とヤミ市（闇市）が開設されました。その商品は高価ではありましたが、食料や衣料品などの生活必需品を入手することができました。このコーナーでは、池袋のヤミ市に関連する資料や、生活必需品が不足していた頃に活躍した用具類を紹介しています。

●おもな展示資料●

鉄兜を改造した鍋、復興商店街半纏、リュックサック、折りたたみ弁当箱、タイヤゴムを利用した草履

☆都電と豊島区

都内の道路が多く自動車で溢れるようになると、都電は、都民の足として活躍していました。しかし、法改定によ

って車が軌道（路面電車の線路）内に乗り入れられるようになると、車に進路を阻まれた都電は、速度が低下し、定時運行も困難になり、路上の「邪魔者」へとなっていくます。そして、整備が進められていた地下鉄に都市交通の主役の座を譲ることになったのです。ここでは、都電が東京の都市交通の中核だった頃の資料と、都電と同じ時期に都内を運行していたトロリーバスに関連する資料を展示しました。

●おもな展示資料●

運転系統板、側面板、都電・都バス案内図、トロリーバス模型
（秋山）



《池袋モンパルナスを生きた人々》を終えて

二〇〇六年三月一六日（木）から五月一四日（日）までの会期で、「新池袋モンパルナスまちかど回遊美術館開催記念企画展 池袋モンパルナスを生きた人々」を開催いたしました。

この「新池袋モンパルナスまちかど回遊美術館」は、立教大学・東武百貨店・NPO法人池袋ゼファーマちづくり・豊島区が主催し、池袋西口の活性化、まちづくりに寄与することを目的として開催されたイベントです。「街全体が博物館」というコンセプトにより、東武百貨店の画廊での熊谷守一と吉井忠の作品展や、立教大学での熊谷樞・吉井爽子の作品展をはじめとして、池袋西口にある公共施設・店舗・喫茶店・ギャラリーなど合計四五ヶ所に、若手芸術家や子どもたちの美術作品を展示しました。また、熊谷守一美術館でも、同時期に特別展を開催しました。郷土資料館も、これらの美術作品の展示拠点のひとつとして、会期を合わせて「池袋モンパルナスを生きた人々」という企画展を開催することになりました。

この展示会では、豊島区で所蔵している美術作品を中心に、池袋モンパルナスゆかりの人々からお借りした作品や、アトリエ村関連の史料など、約百点の資料を展示しました。展示は以下の四つのコーナーで構成しました。

- ◇アトリエ村の形成
- ◇与野会
- ◇熊谷守一
- ◇戦争と池袋モンパルナス



会期中には、多くの方々にご来館いただき、盛況のうちに終了することができました。以下、今回の企画展に寄せられたアンケート意見をご紹介します。

○様々な展示物があり楽しかった。個人的には吉井忠さんのスケッチがすばらしかった。
〔年齢・性別不詳〕

○戦後のアトリエ村を懐かしく思い出す。
〔60歳・男性〕

○池袋西口の文化面（歴史）を知り感動（キタナイ西口（中略）ではなく）
〔69歳・男性〕

○回遊美術館に興味をもち、先日バスを利用して、ひとめぐりしましたが、その際、郷土資料館を訪れる時間がなくなり、あらためて本日来ました。充実した内容でありがありがとうございました。
〔48歳・女性〕

○池袋モンパルナスや熊谷守一、吉井忠など、若き日の情熱に燃える絵かきさん達の様子がよくわかった。もっと宣伝ができないものか。外国などは街中にポスターを貼って、開催中のお知らせしている。
〔75歳・女性〕

○春日部たすく画家の絵は画集にもあまり出ないので、この5点は素晴らしい。今後もどこかで展示されることを望みます。
〔58歳・男性〕



○戦後のアトリエ村を懐かしく思い出す。
〔60歳・男性〕

○池袋モンパルナス、アトリエ村に興味がありまいました。常設展の模型などは何度拝見しても興味深いものであり、特別展も面白かったです。もう少し突っ込んだ資料等を拝見できるとありがたいと思いました。池袋モンパルナス・アトリエ村は、豊島区の大切なものであると思いますので、今後も大切に、そしてさらなる研究の発展、そして公開を期待いたします。これからの企画展等も楽しみにしております。
〔女性〕

（いとう）

日中戦争二年目の修学旅行

かつて豊島区に池袋第七尋常小学校
(一九四一年からは池袋第七国民学校)

先神を祀ったもので、戦勝祈願の意味が
大きかったでしょう。

という学校がありました。校地は、現在の
上池袋二丁目25の上池袋公園および都

第一日

営アパートをふくむ一帯でした。一九四
五(昭和二〇)年四月の空襲で全焼、池
袋第一校に統合されて廃校になりました。

昭和十三年六月二十五日午後七時半校
庭にて出発式を行ひ、直に出発。八時半
東京駅着、宮城遙拝、十時二十五分東京
駅を発す。十一時過ぎには明日の予定も

このたび、池袋第七校に在学された谷
川カズさんから、同校「学報」などの関

係資料をご寄贈いただきました。谷川さ
あること、て一同寝に就く。

第二日

んはお家の事情で数年間のみの在学でし
たが、学校や周辺の様子、校歌などを楽
しそうに語られ、先生や友達の話が分
からないことがたいへん残念そうでした。

二十六日午前五時二十五分名古屋着、
湯茶を積込み桑名にて朝食。八時四十分
山田駅着、宇仁館に荷物を預け外宮並に
別宮を参拝す。空には一片の雲もなく初
夏の太陽輝く。バスにて内宮前に至り對

ここでは、「学報」第七号の一部を紹
介させていただきます。「学報」という

泉閣にて昼食後、内宮参拝、神楽奉納、
記念撮影。再びバスにて午後三時二十分

のは、学校の一年間の活動記録や児童の
作品を編集した冊子で、七号は一九三八

二見着、興玉神社参拝、夫婦岩等を見学
す。沖には〇〇艦隊の艦艦浮び、上陸の
水兵にて雑踏す。午後五時山田市宇仁旅

(昭和一三)年度を対象としています。

館着一泊。

次に掲載した文は、六年生の「参宮旅
行」の学校による記録です。参宮旅行と

第三日

は、修学旅行にあたるものですが、日中
全面戦争二年目の戦時下、主な旅行先は
伊勢神宮と榑原神宮、いずれも皇室の祖

午後五時起床、午前七時大軌電車にて
榑原神宮に向ふ。本日も日本晴愉快な旅

を続ける。九時二十五分神武天皇御陵前
着。御陵榑原神宮参拝、遠き昔の偉業を
思ふ。久米寺にて昼食。午後二時五十六

「〇〇艦隊」というのは軍事上の秘密
で部隊の名を隠しているのです。「艦艦」
(もうどう)とは軍艦のことです。児童
の作文では「沖に停泊中の駆逐の水兵さ
られてしまったのです。

分山田駅着、旅館にて夕食、午後五時五
十分山田駅発にて帰途に就く。

翌日は大軌電車(大阪電軌鉄道、現在
は近鉄)で、榑原神宮へ。参拝・見学の
後、再び山田へ戻ってから、名古屋經由
の夜汽車の旅となりました。(あおき)

第四日
午前五時四十分東京駅着、六時宮城遙
拝、万歳の後学校へ向ふ。池袋駅より初
めて雨に会ふ然も猛雨。七時半無事帰校
解散す。

計三泊四日の日程ですが、車中泊があ
って、見学・参拝は真中の
一泊二日だけとなっていま
す。東京を離れる時と東京
に帰って来た時には皇居に
向かつて礼をする宮城遙拝
が欠かせないものでした。

東京―名古屋間を約十時
間かけています。今なら新
幹線で約二時間です。山田
駅(現在の伊勢市駅)でお
りて伊勢神宮参拝。参加児
童の作文「参宮旅行記」(同
じ「学報」掲載)によると、
この後、二見ヶ浦に行く途
中で変事がありました。先
頭のバスがパンクして「え



東京市豊島区市立小学校伊勢参宮團 第六回 (池袋第七尋常小学校) 14.10.10

池袋第七小学校、昭和14年の伊勢参宮旅行 (谷川カズ氏提供)

セピア色の記憶

第16回

威光山法明寺参道に仁王門があったって？

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した戦前期と現在（二〇〇六年五月三〇日撮影）の威光山法明寺参道付近（南池袋三丁目五・六番街区）の様子です。地図に示した*印は撮影地点を、↓印は撮影方向を示しています。

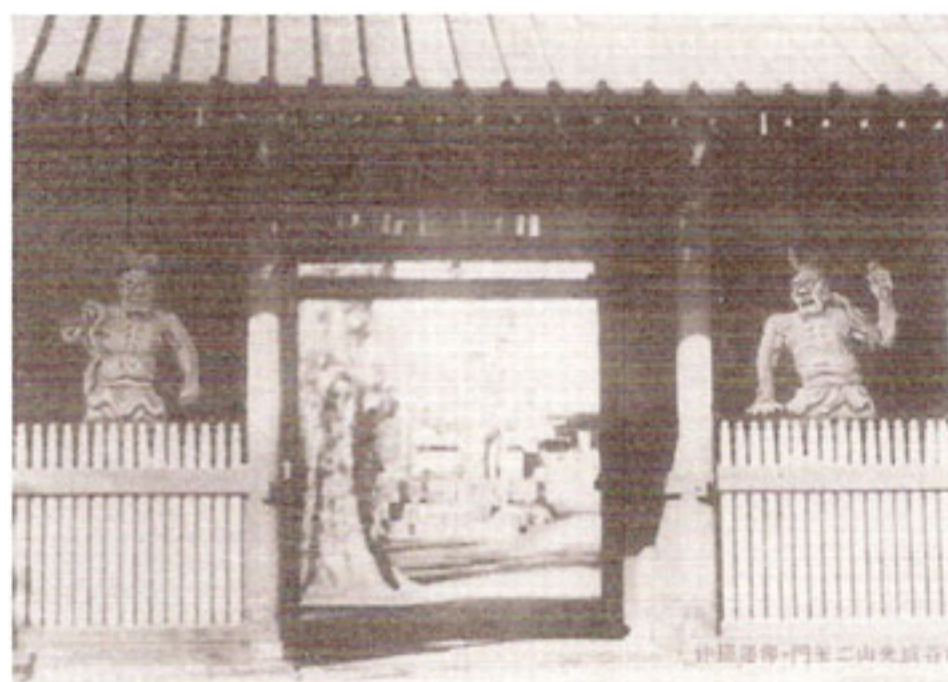
上写真の仁王門には、運慶（一〇二二―一〇七〇）作と伝えられる仁王像が納められていましたが、残念ながら、いずれも一九四五（昭和二〇）年四月一三日夜間の空

襲で焼失してしまいました。「あの仁王様は恐かった。」と子供時代を思い出して話をされるお年寄りもいらっしゃいます。

法明寺は、八一〇（弘仁元）年に真言宗の威光寺として、この地に開創されました。その後、日蓮宗の宗祖日蓮（一二一三―一二八二）の弟子であった日源（一一三一―一二一五）により一三二二（正和元）年に日蓮宗に改宗し、威光山法明寺と寺号を

改め現在に到っています。境内には、酒井抱一筆の葬塚や庚申塔、また、墓域には、豊島氏一族や小幡景憲などの墓があり、史跡散歩を楽しむ人が訪れています

しかしながら、この間、一九二二（大正一一）年の関東大震災で本堂が倒壊。さらに、一九四五（昭和二〇）年の空襲で全山が焼失（鬼子母神堂は免れる）するなど、法明寺は大きな被害を受け、また、貴重な資料を失ってしまいました。



さて、上写真の出典は、法明寺や鬼子母神への参拝記念として昭和一〇（一九三五）年前後に製作された繪葉書（全一三枚）です（中島英雄氏寄贈）。ほかに、かつての参道のケヤキ並木や鬼子母神堂周辺の様子など、貴重な風景写真の存在を確認できます。また、当時の人々の服装や道端の看板、住宅の外観などにも興味を引かれます。そして、繪葉書の包紙には、当時の法明寺周辺の様子が鳥瞰図風に描かれています（右写真）。

豊島区のように、震災や戦災、あるいは急激な都市化の進行によって大きく景観が変わってしまった地域にとって、こうした「古い」繪葉書や鳥瞰図は、かつての景観を復元する際の立派な根拠資料となるのです。

（秋山）

郷土資料館からのお知らせ

郷土資料館年間事業予定

展示

◆第1回企画展 7月20日(木)～9月10日(日)「歩く・聞く・写す」

秋は、屋外を散策しながら地域の歴史・文化に触れる季節。その前に、まず準備をしましょう。資料館には、そのためヒントがあるはず。展示期間中、2回(7月22日・8月19日)、展示談話会とともに探索コース作りのお手伝いの機会を考えています。

◆第2回企画展 1月末～3月末に予定

講座

◆歴史講座

①9月(仮称) スガモブリズン

②10月(仮称) 鉄道資料を読む

◆地域史講座

①10月 フィールドワーク

(仮称) 江戸武家屋敷をあぐる

②11月～2月

わかる豊島区4「道・まち・商い」

◆資料調査・整理

◆旧田島平家家長屋門所蔵資料の調査

当家からの寄贈資料群のデータ整理と報

告書刊行にむけての編集作業

◆榎本家文書整理

種苗業榎本家寄贈文書資料群のデータ整理

◆文芸坐関係資料の整理

◆内倉金網寄贈文書の整理

◆逐次区民寄贈資料の整理

当館の所蔵資料のほとんどは、区民の方からの寄贈によるものです。時期を問わず、電話や窓口で資料の寄贈の話を受け、先方へ出向き拝見します。そして、諸条件から受け入れるか否かの判断をし、寄贈が決まると引き取りにうかがいます。あるいは、館に直接持参していただくこともあります。その後、資料の汚れを除いたり大きさ・重さの計測、使用方法等を寄贈者からお聞きし、記録します

◆資料の保管

前号でお知らせしたとおり、文化財資料調査室の閉鎖にともない、その場所の機能(資料の洗浄・整理・一時保管等)が旧第十中学校(千早四丁目)へ移りました。そのため引越し作業を3月17日から4月6日にかけて集中的に実施し、また、北区内の資料保管庫の資料も5月

*展示・講座の開催日と内容等については、当館へ直接お問い合わせください。また、「広報としま」をご覧ください。



資料は業者の力を借り2トン車で西池袋から千早へ



4階に移動したラックには元通りに資料を配置

25日に同所へ移動しました。今後は、所蔵場所が変わった資料の台帳整備の作業が待っています。

資料を、虫やカビの害から防ぐために、毎年1回、燻蒸(くんじょう)という作業をしています。今年も、11月末に実施する予定です。

編集後記

空模様を気にしながらの資料の大移動はひとまず終えました。しかし、引き続きいておこなう作業があり、従来どおりの当館事業を円滑に進めるためには、少し時間をいただきたいと思えます。それは、当館に隣接して存在していた「文化財資料調査室」の存在がいへん大きかった理由によります。

ところで、昨年度に引き続き、区役所の組織改編のため、当館の所属が変わりました。「文化商工部 学習・スポーツ課 郷土資料館」です。今まで以上に、当館を活用していただけるよう、事業の充実を考えたいと思えますのでどうぞよろしくお願いたします。

(ふ)

かたりべ

No.82

2006年6月15日

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話 03-3980-2351

http://www.museum.toshima.tokyo.jp